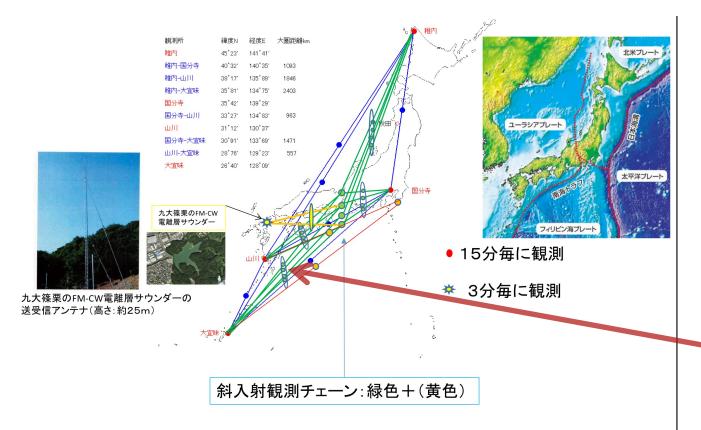
2024年8月8日南海トラフ地震臨時 情報に関連する日向灘M7.1地震発生 (16:43) 直前の電離圏異常について (電離層イオノゾンデ斜入射観測) 一続報その1の補足情報―

> 京都大学大学院情報学研究科 梅野健 (2024/8/12 13:15(JST))

続報の補足情報

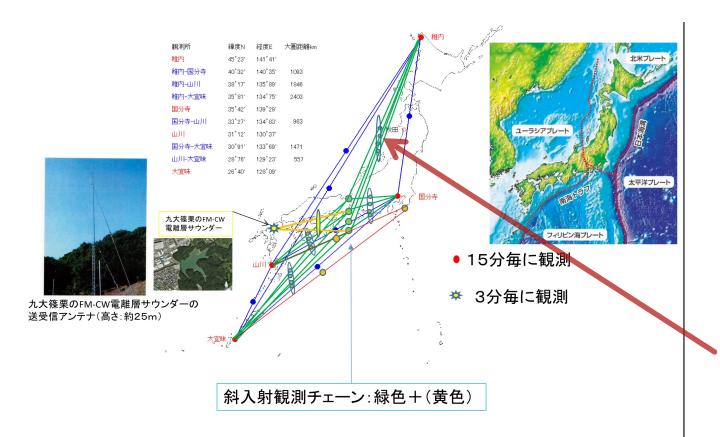
- ▶ 沖縄一京都パス間の日向灘で異常があったと報告した14:45(JST)と同時刻に、稚内(北海道)、国分寺(東京都)、山川(鹿児島県)からのパスでは異常が無かった証拠データを示す。
- ▶ 論理的に、沖縄一京都パス間(中間地点は日向灘)のみで異常があった。ことから、 考えられる4つの想定域の中で、日向灘付近の上空電離層のみで異常が現れた。ことを特定したこととなる。
- ▶ 考えられる4つの想定域:佐渡島の北方付近(稚内→京都)、長野県南部(国分寺→京都)、高知県西部(山川→京都)、日向灘(沖縄→京都)の位置関係を示す。

イオノゾンデレーダー:沖縄大宣味(NICT)→ 花山天文台(京大)の中間地点での電波の反射 で日向灘上空の電離層の様子が解る。



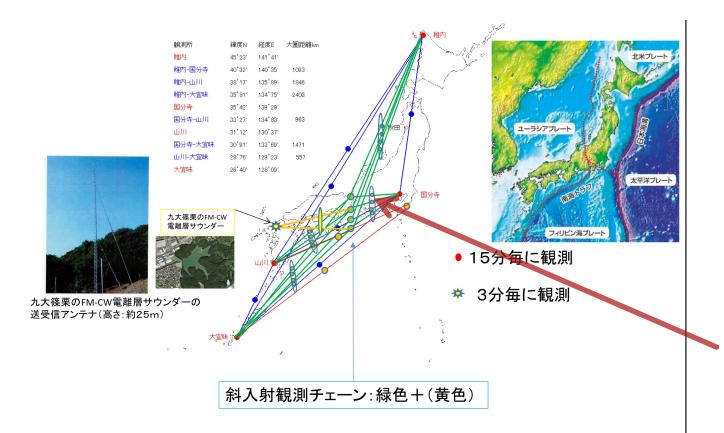
大宣味(沖縄)と 花山天文台(京大)との中間地点 =日向灘地震の震央付近

イオノゾンデレーダー:稚内(NICT)→花山天 文台(京大)の中間地点での電波の反射で佐渡 島北方上空の電離層の様子が解る。



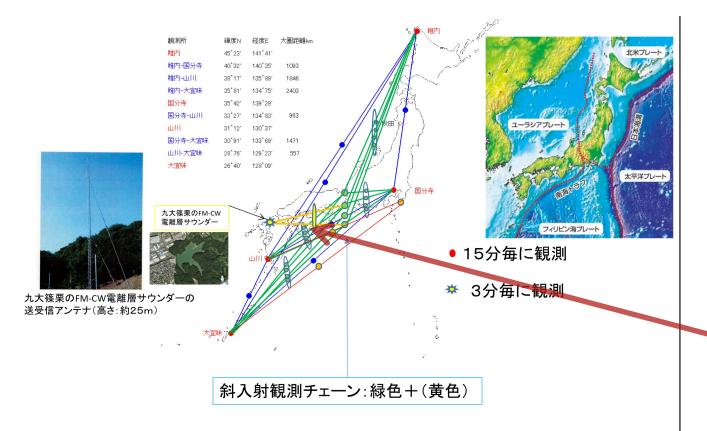
稚内(北海道)と 花山天文台(京大)との中間地点 =佐渡島北方上空付近

イオノゾンデレーダー:国分寺(NICT)→花山天文台(京大)の中間地点での電波の反射で長野県南西部上空の電離層の様子が解る。



国分寺(東京都)と 花山天文台(京大)との中間地点 =長野県南西部上空付近

イオノゾンデレーダー:山川(NICT)→花山天 文台(京大)の中間地点での電波の反射で 高知県南西部上空の電離層の様子が解る。



山川(鹿児島県)と 花山天文台(京大)との中間地点 =高知県南西部上空付近

補足情報からの結論(2024年8月12日13:15)

- ▶ 2024年8月8日16:43(日本時間)発生のM7.1日向灘地震の1時間58分前に電離圏異常が 観測されたのは、花山天文台で観測される4候補地(佐渡北方、長野県南西部、高知県 南西部、日向灘)の内、日向灘上空の電離圏のみが異常であった。
- ▶ 全て関連のデータ(京大観測のオリジナルデータ)は公開されており、誰もが検証できる状況の中で、上記結論に達した。
- ▶ 地震発生準備過程の地殻変動ー>電離圏異常の物理メカニズムも論文として公開しており(京都大学2024年4月18日プレスリリース)、https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2024-04-18-0 本電離圏異常が地震の直前のものではないという批判の根拠となる証拠やデータは皆無である。
- ▶ 京都大学は、今後も、観測データを即時公開し、継続的に南海トラフ地震臨時情報に 関して補足となる様な科学的事実に基づく情報を付加情報として提供していく。